

ニューヨークの日系人と天理教伝道 ②

おやさと研究所講師
尾上 貴行 Takayuki Onoue

ニューヨーク伝道開始

ニューヨークにおける天理教伝道は、1933年にシカゴで開催された世界宗教大会へ出席するため訪米した中山正善2代真柱が、8月4日から17日まで同地に滞在したことが嚆矢とされる。その様子は『タイム』誌8月28日号に掲載されている。2代真柱は、戦後の1951年にも渡米しニューヨークを訪れている。1965年に移民法が改正され日米関係が改善される中、日系企業の進出が促進され、新たに渡米し在住する日本人も増加していった。その中には天理教の教信者も含まれており、天理教の布教活動が本格的に行われる土壌が整っていった。

1962年2月、アメリカ伝道庁の3代庁長をつとめた吉田進が、「世界の人種の入り混じったニューヨークでの布教はそのまま世界の国々への布教に通ずる」（奥井2009年、1頁）との思いから、ニューヨークでの布教活動を開始した。当時、ニューヨーク周辺に散在していた天理教関係者が、互いに連絡を取り合うようになり、毎月吉田宅に集まり、月次祭をつとめるようになった。その主なメンバーは、日本からの駐在者や留学生たちであった。さらにロサンゼルスに教会を設立した森下敬吾も同年9月から、ニューヨークに単身でわたり布教活動を約1年間行った。1968年にニューヨークを訪れた当時アメリカ伝道庁の書記であった寺田好和は、ニューヨークセンターの『設立20周年記念誌』で当時の様子を次のように述べている。

私が初めてニューヨークへ来させて頂いたのは、アメリカ伝道庁の書記も務め、アメリカ青年会の委員長も務めておりました時、確か1968年だったと思いますが、あらきとうりょう号による東部巡回で、ニューヨークに来させて頂いた時でした。その当時のニューヨークには吉田先生がアパートを根城に、ニューヨークにおられるお道の人達の集いをおつとめ頂いておりました。……自らはニューヨークの旅行者で働きながらアパートを借りて、ご夫婦でアメリカの将来の道を、又アメリカを土台にした世界へのお道の広がりを楽しみしながら苦労の中をこつへと務めておられました。(5頁)

1971年、吉田進がハワイ伝道庁の3代庁長に任命され、ニューヨークを去った後は、在住する信者宅を持ち回りで会場として、継続して月次祭が行われていた。

中山善衛3代真柱のニューヨーク訪問

ニューヨークに本部の拠点「Tenrikyo Mission, New York Center」が設立される契機となったのは、1971年の中山善衛3代真柱の来訪であった。3代真柱は、ブラジル伝道庁へ巡教の途次、ニューヨークに立ち寄った。ちょうど誕生日であった7月7日に、在住の永住者家族、日本からの駐在者家族、留学生など30名を越す人々が、マンハッタンにある日本クラブに集まって歓迎会を開催した。

この真柱来訪を契機として、ニューヨークに天理教関係者が集う場所を設置する機運が高まり、1976年のアメリカ伝道庁設立40周年に向けての活動の一つとして、東部拠点としてニューヨークセンターを設置することが、1971年に同伝道庁で決定された。アメリカ青年会では、設置運動を青年会活動の一つとして、資金のカンパを開始した。この募金で集まった2,000ドルは後に伝

道庁に移管され、伝道庁では「1ドル募金」として管内の教会や布教所などに呼びかけ、拠点設置の募金が継続された。翌72年3月に、植田英次アメリカ伝道庁6代庁長はニューヨークを訪れ、拠点設置について在住の天理教関係者と話し合いの場を持ち、第一歩として、ニューヨーク市のクインズ区にアパートを借りて、集いの場所とすることを決定した。以後、伝道庁から随時教師が派遣され、拠点設置準備に向けた活動が継続された。

天理教ニューヨークセンター開設

1971年の拠点設置決定以後、拠点の場所に適切な土地建物探しは継続して行われていたが、なかなか条件に見合うものが見つからなかった。また当時、ニューヨークはもとより他の東部地区に在住する天理教教信者の数は少なく、多くは日本からの派遣駐在者や留学生などの一時滞在者であった。そのため、拠点を設置してもどれだけの人が集うのか、どれほどの活動が行えるのかなど、アメリカ伝道庁関係者やニューヨーク在住者にとっても、「センターという重荷を背負い込む事は、不安な賭けであった」（漁野1993年、13頁）。その一方で、東部地域にも天理教関係者が集い、信仰を深める場所が必要であるとの考えも示されていた。その様子は、当時伝道庁巡回の一員としてニューヨークを訪れたジョージ・ブレシュの「ニューヨーク布教一考察」にうかがえる。

ニューヨークの天理教グループは、特異な性格を持っていません。少人数（7・8家族）から成り、同年代（20代半ばから30代半ば）で、大体が仕事場での地位の確立と家族を構成する最中にあるので、特にニューヨーク市のような所では大変忙しい状態です。ほとんどが商業界、学校また仕事の関係で引き寄せられた方々のようです。ほぼ全員の方がおさづけの理をいただいておりますが、ニューヨークへ来られた目的は布教ではありません。私としては、このグループに対し関心を持たざるを得ません。若く、そして大きな可能性を持っています。しっかりしたスタッフを持つセンターを中心として、だんだんと活発なニューヨーク地方の天理教グループの背骨となり得ると信じます。東部海岸にも、人々が問題を抱いて帰れるところ、疑問を持って行くところ、信仰の熱に点火し、又補給する伝道庁のような場所が必要であることを痛感致します。(ブレシュ1976年、10頁)。

こうして紆余曲折の後、1976年秋に適当な家屋が見つかり、翌77年1月、長年の念願であった東部地区を管轄する天理教拠点「Tenrikyo Mission, New York Center」が、アメリカ伝道庁の出張所としてニューヨーク市クインズ区フラッシングに設置された。初代所長には、上原真雄が任命され、所員としてアメリカ伝道庁の「アメリカ布教の家」を修了した漁野徳明、続いて奥井俊彦が派遣された。[参考文献]

奥井俊彦「二代真柱様一人から始まったニューヨークの道」『天理教海外部報』528号、2009年2月26日、1頁。

『設立20周年記念誌』天理教ミッションニューヨークセンター、1997年。ジョージ・ブレシュ「ニューヨーク布教一考察」『一れつ』1976年11月号、9～10頁。

漁野徳明「拠点紹介シリーズ (10) ニューヨークセンター」『天理教海外布教伝道部報』339号、1993年5月26日、13頁。